

■文覚(遠藤盛遠)

もんがく

..... 1139=

私度僧。流罪先伊豆で源頼朝と邂逅、院との間奔走し挙兵実現も、のち配流3度。

嵯峨源氏を祖とする摂津国渡辺の住人遠藤左近将監茂(持)遠の子に生まれる。俗名遠藤盛遠。

遠藤氏は巨大寺院たる四天王寺や渡辺党と結びつき深く、

..... 1148= 9歳 :

保元の乱・ 1156=17歳 : 摂津渡辺党の源渡の妻袈裟御前を誤って斬る。

藤原基衡没・ 1157=18歳 :

平治の乱・ 1159=20歳 : 上西門院衆(滝口武者・警護)となる。後白河院が上西門院同腹の弟だったことが後の展開につながる。

この間、発心して出家し、文覚と自称。真言僧ではあるが正規の受戒をしていない私度僧とみられ、

..... 1163=24歳 : 紀州熊野に入り、三山で断食修行、以後、重要な場面で長期断食をする力をつけるなど、

この間、上覚が弟子入り。

以降、大峰・高野・立山・戸隠・羽黒など諸霊場で苦行修練をつんで、修験行人となり、

源頼政内昇殿1166=27歳 :

厳島神社・ 1168=29歳 : 京都に帰り高野に住する。初めて神護寺に参詣、その荒廃ぶりを嘆いて再興を發願、

早速草庵を建て、仮本堂、納涼殿、護摩堂から、僧坊までを完成させ、

初期復興を遂げると、さらに本格的な復興をめざして、

..... 1173=34歳 : *法住寺殿に参向、後白河院に神護寺復興を強訴するも、拒否されたため暴言を吐き、北面の武士に捕えられ、

検非違使に引き渡され、源頼政の郎等に連れられ伊豆に流罪、おりしも流刑中の源頼朝と邂逅、

法然浄土宗始1175=36歳 :

頼朝がかつて上西門院藏人だったこともあって、急接近、都の情勢などを伝え、平家打倒を持ちかける。

一方、鹿ヶ谷事件等で追いつめられた後白河院にも文覚に期待を抱くようになり、源頼政介した院宣で、

赦免されるや、平家打倒でのみ目標一致する院と頼朝の間を奔走、神護寺境内に院専用仙洞院建て、

治承のケテタ 1179=40歳

後白河院宛てに再興の志と援助懇望する長文の書簡を送る。

源氏一斉蜂起1180=41歳

*頼朝の挙兵を実現。この際、後白河院から院宣を持たされ、千葉氏を味方に引込む工作をしたらしい。この

年、上覚が神護寺に引き取ったその甥の明恵と出会い、以後、孫のような明恵を敬愛、

これにより2人の権力者を神護寺再興の外護者にとりこむことに成功、

..... 1182=43歳 :

招かれて鎌倉に下り、源頼朝の御願受け江之島弁才天で、奥州の藤原秀衡調伏祈祷、藤原泰通が神護寺に

紀伊国神野真国荘を寄進したのに続き、後白河院に面会して再び神護寺復興を勧進、即座に許可され、

後鳥羽天皇・ 1183=44歳 :

院は紀伊国片田荘を寄進。頼朝からの指示で木曾義仲を誹責、

..... 1184=45歳 :

九条兼実を摂政にするよう後白河院に掛け合ったほか、頼朝の意向受け様々な活動する間、頼朝から丹波

国吉富荘宇都郷、後白河院から丹波国吉富荘一円などを寄進され、

平氏滅亡・ 1185=46歳 :

45ヶ条の起請置文をまとめ、後白河院の手印を受ける。院からの播磨福井荘寄進で広大な根本六荘が揃い、

ついに目標頂点に至るが、荘園紛争や生来の暴言など院・頼朝の不快も買う。父弔う頼朝意向うけた院が

義朝の鬪鬪を鎌倉に持たせる。捕えられた平惟盛の子六代を頼朝に赦免してもらい預る。

奥州藤原滅亡1189=50歳

神護寺復興の目途立つや、後白河院意向受ける形で、東寺の修理にも乗り出し、流罪になるまで続ける。

源頼朝上洛・ 1190=51歳

*神護寺復興ピークとなり、後白河院の高雄行幸で、院の御願寺となったことを内外に知らしめる。

臨濟宗始・ 1191=52歳

京都でかねてから描かせておいた阿弥陀三尊の画像を鎌倉に送った。

鎌倉幕府始・ 1192=53歳

後白河院の死去で衝撃受けるも、なお源頼朝が積極的に協力していたが、

..... 1193=54歳 :

東寺・西寺・神護寺・高野各塔修理順調願い「仏説造塔延命功德経」書写。俊乗房重源による東大寺復興事

業に介入、頼朝は、文覚が播磨国を知行して東大寺修造を行うよう伝えている。

東大寺再建完1195=56歳

東大寺落慶供養後も播磨知行権を維持。

建久7年政変 1196=57歳

政変で源通親が実権握るや、追い落としの標的にされ、

..... 1197=58歳 :

紀伊国阿氏河荘下司職(地頭職)を源頼朝より賜るが、天王寺と高野大塔の棟を沙汰するという留保付きで、

この下司職を湯浅宗光に譲っている。再興事業は終了したが、

..... 1198=59歳

突然藤原俊成を訪ねて、嘆息。高雄を出た明恵を引き戻すべく梅尾に学問所(のち高山寺)つくる。

源頼朝没・ 1199=60歳

*源頼朝が死去すると、京都で起きた土御門通親襲撃計画に関与した理由で捕えられ、佐渡に流された。

執権政治始・ 1203=64歳

許されて帰洛したが、神護寺の惨状みて後鳥羽院を激しく非難したため、罪に問われ、対馬に配流され、

鎮西で没したという。